



今は見ることのできない新・旧水府橋

## 戦争・震災も乗り越えた80年の歴史に幕 生まれ変わった水府橋

茨城大学名誉教授

# 小柳 武和さん

TAKEKAZU KOYANAGI

水府橋モニュメント検討会会長

1979年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。東京工業大学工学部社会工学科 助手、茨城大学工学部都市システム工学科 助教授、同教授を経て現在に至る。

研究分野は「交通工学・国土計画」「土木環境システム」。公益社団法人土木学会関東支部茨城会会長。



Plaza Special Interview

人&人ハーモニー harmony VOL.92

**昭和初期の歴史的遺産  
震災にも耐えた『水府橋』**

平成28年3月30日、旧水府橋モニュメントの除幕式が開催されました。旧水府橋はトラス構造で、日本百名橋にも選定された美しい橋。その完成は戦前の昭和7年で、平成25年10月に新水府橋が完成するまで80年間、第二次世界大戦や東日本大震災にも耐え、人々の足となってきました。通学や通勤などで使った思い出を持つ方々も多いのではないのでしょうか。

旧水府橋は、もともと水戸駅前から那珂川対岸に伸びる国道6号の部でした。明治に国道という制度が定められ国道6号ができますが、東京から水戸を通り仙台まで続く要路なのに、当初は水戸駅から現在の下水ハミングロードを抜ける曲がりくねった道でした。そこで、思い切って旧水戸城の二の丸と三の丸の間に新たなお堀を利用してその間に道を通そう、ということになったのです。二級国道ですから、いわば国の二大プロジェクト。世界的な大恐慌に見舞われていた昭和6年に政府の失業対策として始まり、1日300人もの作業員を雇用する人海施工で、わずか1年で完成させました。橋梁構造は、両側に歩道を設けるという、当時としては画期的なものでした。しかりとしたつくりで、鉄骨も完成当時のまま、10年一度鉄骨が錆びないように塗料を塗りなおすだけで、何のトラブルもなく80年間私たちの生活を支えていたのです。

**契機は昭和61年の那珂川の氾濫  
川幅拡張に対応した新水府橋**

そんな水府橋に架け替えの必要性が生じたのは、那珂川がたびたび氾濫を起し浸水被害が発生したことにあります。茨城県では、特に昭和61年8月の洪水では約5500戸、平成10年8月の

洪水では約800戸の家々が浸水しました。そこで、平成10年度から国土交通省では川幅を広げて築堤する河川改修事業を、茨城県では広がつた川幅に合わせる橋梁架替事業を推進し、平成25年10月に新水府橋の開通となったのです。この架け替えにより、橋の長さは171mから354.5mとなりました。橋の役目を終える旧水府橋は、平成18年に公益社団法人土木学会が選定する「日本の近代土木遺産」現存する重要な土木構造物2800選に選定されるなど、県内はもろろん日本国内においても重要な歴史的建造物でした。できればそのままの形で残しておきたかったのですが、川の流れを阻害するため、橋周辺にモニュメントとして残すことで検討を始めました。

**モニュメントは歴史とともに  
防災意識のシンボルに**

そして今年3月、旧水府橋はその部材の一部を活用したモニュメントとして新たに生まれ変わりました。昭和のはじめに極めて高い技術で作られた歴史的建造物であったこと、また80年もの間私たちの暮らしに寄り添ってくれたことを語り継ぐ、そして防災への意識を高めるシンボルとして、橋の兩岸2カ所にモニュメントはあります。水府橋に思い出のある方はぜひ訪れていただきたいです。

また、旧水府橋と同様に「日本の近代土木遺産」現存する重要な土木構造物2800選に選ばれた水戸市内の土木遺産は他に2カ所あります。ひとつは昭和7年竣工、美しい鉄骨が施された「水戸市低区配水塔」（水戸市北見町2丁目）。もうひとつは、昭和10年竣工、江戸時代当時の姿を再現した鉄筋コンクリートの橋「大手橋」です。どちらも旧水府橋と同時代の建造物です。鉄筋コンクリートの黎明期に最先端の技術で作られた美しい建造物達は、地域の宝として大切にしていきたいですね。



①モニュメント式典の様子。最前列左から4番目が小柳教授。②昭和61年の大洪水の様子。広範囲に渡って水害に見舞われた。③旧水府橋モニュメント④旧水府橋、昭和7年竣工当時の姿。川風になびかれながら歩く市民の癒しのスポットにも(写真:水戸市立図書館)。